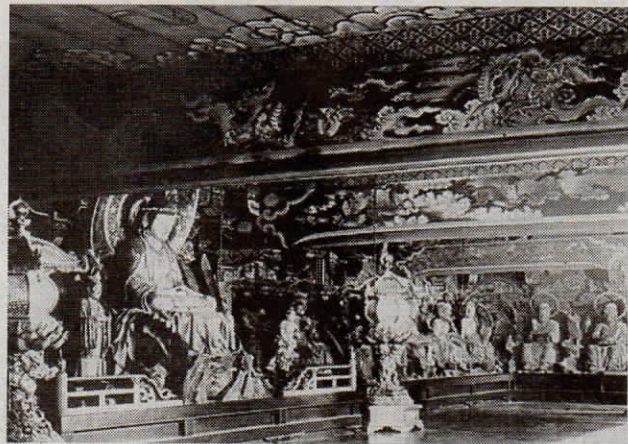


京都の重文答申 知恩院の群像も

重文指定を受ける木造釈迦如来及両脇侍像と
木造十六羅漢坐像（文化庁提供）



文化審議会が19日、指定を答申した京都の重要文化財のうち、八瀬童子資料のほかの2件は次の通り。

【絵画】「絹本着色賢聖障子」（京都市右京区・仁和寺）狩野永徳の次男、孝信（1571-1618）の作で古代中国の聖人32人などを描き、後水尾天皇即位後に紫宸殿母屋などに20面がはめ込まれていた。紫宸殿には



古代中国の聖人を描いた絹本着色賢聖障子の一部（文化庁提供）

平安時代以降、賢聖障子が描き継がれてきたが、現存最古の障子となる。1641（寛永18）年に、仁和寺に下賜された。

【彫刻】「木造釈迦（如来）及両脇侍像3体」・木造十六羅漢坐像（16体）（京都市東山区・知恩院）知恩院三門の階上に安置された群像で、府教委が昨年調査したところ釈迦像の内部に「七条大仏師法眼康猶（こうゆう）」の銘が確認され、制作年代も1620（元和6）年と分かった。十六羅漢も2体に康猶一門の康如の銘があり、江戸彫刻の成立を知る上で重要という。

また同審議会が同日、登録を答申した京都で登録される有形文化財は次の通り。

【建造物】茶六本館（京津市魚屋）大正前期、昭和初期の2期にわたって建設された3階建ての旅館で、一階の出格子などがすっきりした意匠を持つ▽清輝楼（同）宮津湾に面して1901（明治

滋賀の有形文化財答申 大津の町家5軒

滋賀県では、大津市の旧市街地にある旧家5軒が有形文化財として登録される。江戸末期から昭和初期に建てられた「町家（ちやういえ）」で、旧東海道沿い周辺の古いまちなみを構成する貴重な建物だ。いずれも湖国三大祭りの一つ、大津祭りの曳山巡行を2階から見物できる構造を備えている。

町家で、大津祭では隣接の町家と一体になり曳山の組み立てや解体、収納などを行う場として使われた▽石田家住宅主屋及び洋館（同市中央1丁目）1937（昭和12）年。主屋は平屋建てで切妻造り、数寄屋風の意匠の洋館。2階建て切妻造り、スパニッシュ瓦葺き。2階はスタンダードグラスのほらまの窓（だえん）窓が設置される▽桐畑家住宅主屋及び離れ、土蔵（同）江戸中期・明治中期。主屋は2階建て、切妻造り、東側に鉄格子の中小窓がある。



北川家住宅主屋（大津市京町1丁目）—滋賀県教委提供

【重要文化財】
絵画の部 紙本墨画淡彩峨松図（文化庁）▽絹本着色聖徳太子絵伝（東京国立博物館、東京都台東区）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽絹本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）

【国玉】
古文書の部 越中国射水郡鳴戸村聖田図（麻布奈良国立博物館、奈良市）

【重要文化財】
絵画の部 紙本墨画淡彩峨松図（文化庁）▽絹本着色聖徳太子絵伝（東京国立博物館、東京都台東区）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）

【重要文化財】
絵画の部 紙本墨画淡彩峨松図（文化庁）▽絹本着色聖徳太子絵伝（東京国立博物館、東京都台東区）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）

【重要文化財】
絵画の部 紙本墨画淡彩峨松図（文化庁）▽絹本着色聖徳太子絵伝（東京国立博物館、東京都台東区）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）

【重要文化財】
絵画の部 紙本墨画淡彩峨松図（文化庁）▽絹本着色聖徳太子絵伝（東京国立博物館、東京都台東区）▽紙本着色浅間山図（同）▽紙本着色洞窟の頼朝（同）▽紙本着色浅間山図（同）